

# 29P1-pm004

「早期体験学習」の薬学教育効果に関する検討（第6報）

○金 成俊<sup>1</sup>, 石川 正樹<sup>1</sup>, 松本 瑞子<sup>1</sup>, 林 幹男<sup>1</sup>, 重山 昌人<sup>1</sup>, 宇佐美 英治<sup>1</sup>,  
中林 恵子<sup>1</sup>, 八田 有洋<sup>1</sup>, 八尋 直之<sup>1</sup>, 津田 泰之<sup>1</sup>(<sup>1</sup>横浜薬大)

**【目的】**6年制薬学部において実施されている1年次の早期体験学習は完成年度を迎える今年度、その評価が問われている。我々は昨年同様、早期体験学習に関する学生のアンケート調査を行い、6年制薬学教育における早期体験学習の意義について検討した。

**【方法】**1学年在籍学生457名を対象に、病院38施設(297名)、薬局52施設(160名)、研究所5施設(202名)にて早期体験学習を実施した。薬局、病院、企業における薬剤師の役割について、また実務実習を体験した6年生より早期体験学習の意義について事前講習会を開催し、学生に受け入れ施設に関する情報を提供した。講習会終了後、学生より実習希望施設の調査を行った。学生ごとの施設見学情報管理については本学独自のソフトウェアを用いた。また希望者を対象に体験学習の一環として、救急救命法の講習も実施した。

**【結果および考察】**99%以上の学生が「早期体験学習により学習意欲が向上した」、「薬剤師の仕事が責任ある魅力的な仕事と感じた」、98%以上の学生が「薬学を学んでいく上で早期体験学習は必要」と回答しており、今回の結果は昨年よりも高かった。「印象に残ったこと、考えたこと」に関しては、[チーム医療、連携]が最も多く、次いで[調剤]、「電子カルテ」、「責任」の選択が多く、昨年との調査とは若干異なっていた。また救急救命法の講習では、大震災の影響もあり、参加学生が昨年よりも多かった。

以上の結果より、1年次の早期体験学習は学生が薬剤師の実態を把握することにより、学生の学習意欲を向上させ、将来薬剤師を目指す学生のモチベーションの高める上で、大変有意義であることが示唆された。